

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1424号 1998年03月30日(月)

《 more comments on the next stimulus measures 》

総額16兆円の与党3党の景気対策基本方針にもかかわらず、金曜日の市場では日本株が売られて、円相場はニューヨーク市場で130円台まで急落しました。その市場への持続的効果のなさ（それは市場が経済への効果のなさを読み取っているということですが）は金曜日のこのレポートで予想した通りですが、今週も市場の基調（円安、株安）は変わらないでしょう。

今回の政策への市場の反応が好ましくなかったことから、また事前に反応を察知してか、この週末の一連のテレビ番組出演や各地での講演では、政府要人が「減税」に関して具体的な数字まで挙げて議論をはじめている。またぞろ、市場と綱引きをしようというわけです。例えば、金融システム安定化対策本部長の宮沢喜一氏は日曜日のサンデープロジェクトで、

「5兆円を真水とすれば、（所得税減税に関しては）3兆円か、もう少し頑張るかどうかは、赤字国債の発行のしかたによる」

と述べて、3～4兆円の所得税減税を念頭に置いていることをにおわせた。こうした「におわし」作戦は、加藤・自民党幹事長らも使い始めている。

この「におわし作戦」にもかかわらず、市場は既に日本経済のファンダメンタルズを正面から見ようという雰囲気を含めており、基調的な円安、株安圧力は強まると見込まれる。為替市場には介入懸念があり、株式市場ではPKO、PLO介入の見通しもあるものの、市場の大きな流れは変わらないと思われます。27日にも書いたとおり、株式市場の活性化するためには企業の業績見通しが改善しなければだめですし、円高基調に戻るためには国内の投資環境が改善しなければならない。詰まるところ、経済の基本的な環境の改善が必要です。

今週の主な予定は以下の通り。

30日(月曜日)

ウィーンで石油輸出国機構(OPEC)の臨時総会

日本の2月の鉱工業生産(通商産業省)

米2月の新規住宅販売(0.6%増予想)

3 1 日 (火曜日)	2月の新設住宅着工 (建設省) <u>米連邦公開市場委員会 (FOMC)</u> 日本銀行が金融政策決定会合議事要旨を公表 3月の米消費者景気信頼感 (1.2%の低下予想)
1 日 (水曜日)	<u>改正外為法施行</u> <u>新日本銀行法施行</u> 3月の全米購買部協会 (NAPM) 景気指数 (52.9 への低下予想) 2月の米景気先行指標 (0.3%の上昇予想)
2 日 (木曜日)	アジア欧州会議 <u>日本銀行短観発表</u> 2月の家計調査 (総務庁) 2月米工場受注 (0.3%の低下予想)
3 日 (金曜日)	<u>ドイツ連銀理事会</u> <u>3月の米雇用統計</u>

《 start of Japanese version of Big Bang 》

予定の多い週です。まず、日本版金融ビッグバンの先陣を切る外国為替管理法が4月1日から改正される。今朝の新聞にも、関連記事が多く掲載されている。広告でも、たとえばシティバンクは朝日新聞 (だけではないかもしれませんが) に4ページに及ぶ全面広告を打っている。こうした各金融機関の「ビッグバン本格化」を控えた動きは、一気に活発化してくるでしょう。

ビッグバンとの関連では、それによって一般的に1200兆と言われていた日本の貯蓄の流れがどうなるかが市場を考える上で重要です。1200兆円を分析していくと、実際に動ける資金はそれほど多くないことが明らかだし、幅広い国民が保有しているわけではない。やはり資産のかなりの部分を持っているのは、東京都内の土地持ちなど限られた数の資産家です。そして全般的に言えることは、こうした資産家はお金を動かすことにきわめて保守的だということです。ですからビッグバンがスタートしたからといって、直ちに大きな資金の動きが出るとは思えない。

しかし、低金利と株安などで日本国内に望ましい投資対象がない環境が続く中では、徐々に「より有利な投資対象」を求める動きは強まるでしょう。金融機関同士の競争激化と、「より有利な投資対象」を求める投資家の欲求の行く手には、やはり日本からの投資の多様化という動きになると思われます。これは具体的に各金融機関がどのような動きをするか、それに対して投資家がどう動くかにかかっています。

米連邦公開市場委員会 (FOMC) とドイツ連銀の理事会が開かれますが、金利操作は予

想されていません。石油価格が石油輸出国機構（OPEC）の日量 200 万バレル減産方針により「底入れした」との見方があり、かつ労働需給が逼迫している現状からアメリカでは「インフレ懸念が高まっている」との見方も出ている。

しかし、実際の統計（卸売物価や消費者物価）はこうした懸念を正当化していないし、OPEC の減産方針にしるどのくらい持続性のあるものかは不明である。石油以外の素材価格は依然として下落基調にある。こうした環境を考えれば、FRB があえて金利操作をする可能性は少ないと見られる。ドイツも、景況からは利上げできないし、かといって金利を下げる環境でもない。

2日に発表になる日銀短観は、日本の景気悪化、日本経済の先行きに対する悲観論を再確認することになるでしょう。調査方法から言ってかなりムードに流される面もあり、3月時点の調査結果はこれまでになく日本経済に関して悲観的な見方が強まるとみるのが自然である。期末明けで、株式市場などでは新しいポジションを取りやすい環境であり、すでに予想はかなり悪いものになっているものの、予想よりさらに悪ければ株価や円相場に響く可能性が強い。

ニューヨークの金融市場に目を転じると、先週後半は株、債券とも調整局面入りしました。1) 米企業業績に陰りが見えてきたこと 2) 石油価格が上昇して、航空株やその他の運輸株に打撃になったこと 3) 石油価格の上昇を見て、インフレ懸念が高まり長期金利（指標30年債の利回り）が再び6%近くまで上昇したこと――などが背景。今週も9000ドルを前にした神経質な展開が予想される。

〈 have a nice week 〉

かなり暖かくなりました。日曜日の午後に出かけたのですが、皆軽装になっていたし、今朝などはコートを着ている人の方が少なかった。今日から10日くらいは桜の季節です。機会をみつけて、楽しみたいものです。週末のスポーツはやはり清水選手がすごかったですね。彼は徐々に国民的英雄になりつつある。発言も非常に地に足がついた好感の持てるものです。

マイクロソフトからWORD98が発売され、MS-IME98とともに使っています。この文章も、新しいソフトで処理している。一番注目は「再変換」機能です。今までは入力文字を一回確定すると、その文字を別の同音異語にするには delete か backspace で消して、もう一度打たなければならなかった。しかし、WORD98ではMS-IME98といっしょに使うことによって「変換キー」（または右クリックの「再変換」）を押すと直ちに別のオプションを示してくれる。

新規文書だけでなく、今まで作ってあった文書の中の文字も完全に直せる。ただし当然ですが、辞書を他のATOKなどにしたらこれは出来ない。これはMICROSOFTにしてみ

れば、「一太郎殺し」というよりも、それより人気のある「ATOK 殺し」の製品になっている。ジャストさんにも頑張ってもらいたいものです。

これは多分慣れるとすごく便利です。ストロークの数はかなり減る。なぜなら日本語の場合、変換・確定ミスは必ずある。私もよくやりますから。私の一番の心配は、「ユーザー辞書」でした。ATOK で貯めに貯めたユーザー辞書が6000語近くある。これが MS-IME98 に移せないのなら話にならない。しかし簡単でした。ATOK「辞書ユーティリティー」「一覧出力」の「出力ファイル」のところをFDDで適当な名前(jishoとか)にし出力してテキスト・ファイルを作り、その後MS-IME98の「単語・用語の登録」画面の右下にある「辞書ツール」に渡り、「ツール」のプルダウンから「テキスト・ファイルからの登録」でFDDを指定してやり、ファイルを開けば完成。エラーログが5%程度の単語について出ますが、MS-IMEに既に登録されている単語の再登録でエラーになっているだけ。ほぼ完璧に移植ができる。

あと、手書き文字を認識するパッドも面白い。マウスで字を書くと刻々とそれに相当する字を表示してくれる。部首が分からなくなったときには便利です。ワープロソフトも改良しようと思えばまだまだ新しい領域はあるものです。

それでは皆様には良い一週間を。

<http://www.ycaster.com/>